

はるかな尾瀬

— 目 次 —

- 02 特集 ～尾瀬のニホンジカによる生態系攪乱とその対策について（前編）～
- 04 現地情報
 - ①原をわたる風だより
 - ②おこじょだより
- 06 エッセイ尾瀬好日
 - 尾瀬ヶ原の主役がヤチヤナギに？
- 07 認定ガイドがススめる とっておきの尾瀬
 - ①五感を使って尾瀬を倍々楽しむ
 - ②魚沼ルートで尾瀬の自然や歴史を学ぶ
- 08 尾瀬ボランティア情報
- 09 TOP I X ～尾瀬サミット2013～
- 10 尾瀬保護財団からのお知らせ



2013.11 vol.23
(公財)尾瀬保護財団

▼色づくヒツジグサ



▲赤い実をつけたナナカマド



▲降霜のチングルマ（紅葉）



▲木道に立つ霜柱

深まる秋、冬の気配…

特集

尾瀬のニホンジカによる生態系攪乱とその対策について

(前編)

はじめに

近年尾瀬では、ニホンジカ(以下「シカ」と略します)による被害が深刻であること、マスコミに取り上げられたり、ハイカーから問い合わせを受けることが多くなってきました。シカの増加による被害は尾瀬に限ったことではなく、全国的に大きな問題となっています。

では、尾瀬での被害とはどのようなものなのでしょうか。ちょっと木道から見ただけではいつもとかわらぬ湿原は青々と広大に広がり、楽しみにしていたニッコウキスゲの数が少ないかな、といった風に思われるかもしれません。でもよく考えてみてください。尾瀬の湿原は非常に平坦で、上から湿原を見渡せる場所がほとんどありません。それに皆さんは木道を外れて歩くことはありませんし、頻繁に尾瀬を訪れて以前の風景と見比べることもできないので、ここが変わったのか分かりづらいと思います。

では空から見てみましょう。ちょっと分かりづらいかと思いますが、湿原に縦横無尽に走っているのがシカの通る道「シカ道」です(写真1)。木道からも気をつけてみるとあちこちにあるのが分かります(写真2)(手前から奥に向けて少し草がない部分がシカ道です)。



▲写真1 浅湖湿原のシカ道(環境省 提供)

シカの被害について

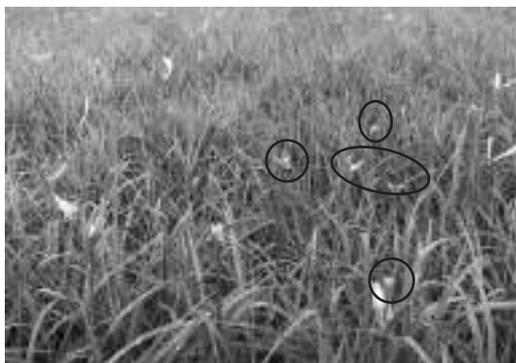
シカは元々日本にいる哺乳類なので、「生態系が豊かな証しなのでは」と考える方もいらっしゃるでしょうが、重要なのは尾瀬にはシカが生息していなかったという点です。檜枝岐村の村史等古い文献を見ると明治初期には生息していた捕獲された(紛れ込んだ?)記録があるようですが、少なくとも狩猟統計ではシカの記録は残っていません。尾瀬では、1990年代半ばにシカの生息が確認され、被害が拡大してきましたが、有史以来、未曾有の危機にあると言えます。

具体的に尾瀬に与えるシカの被害とはどのようなものなのでしょうか。

まずは、シカによる食害です。これはニッコウキスゲの食害等が報道されており、ご存知かと思えます。ニッコウキスゲは周期的に当たり年と外れ年があることも知られており、花が少ないのは一律にシカのせいとはいえませんが、シカは新芽を食べ、花芽(つぼみ)を食べ、さらに実も食べ、ニッコウキスゲに与える影響は少なくありません。

写真3をご覧ください。ニッコウキスゲのつぼみがまばらに生えているように見えますが、よく見るとつぼみから上ががじられてい

▼写真3 食害を受けたニッコウキスゲ(○で囲った部分)



▲写真2 大江湿原のシカ道(○で囲った辺り)

▼写真4 樹皮を食むシカ(群馬県 提供)



(株)群馬野生動物管理事務所

ることがお分かりいただけるかと思えます。植物は花を付けた実を付けるのに多くのエネルギーを使いますので、食害を受けることにより株自体が弱まり、翌年の開花ができなくなったり、世代交代ができなくなる危険性もあります。ミツガシワなどは根茎まで掘り返されることもあり、元の植生への回復が困難な状態になることも懸念されています。植物の好みはあるようですが、環境省の調査では大変多くの植物に食害が見られています。なんと非常に鋭いとげを持つハリブキや毒草として有名なトクセイリまで食べられているのです。

樹木も例外ではありません。樹皮のすぐ下に形成層という部分がありますが、えさが乏しい時期にはこの部分を剥いで食べます。形成層は人間の血管にあたる部分で、大きな樹木でもここを食べられてしまうと枯れてしまいます(写真4)。尾瀬では少し確認されている程度ですが、麓では大きな被害が発生しています。

もう一つの被害は、又夕場やシカ道の形成です。シカは体表についたタニや寄生虫などを落とすため泥あびを行います。その行為でできるのが又夕場です。写真5をご覧ください。無惨に掘り起こされ裸地化しています。しばらくすると緑に覆われてしまい目立たなくなりますが、当然ながら以前の植生ではなくなってしまう。また、湿原を往来することによりシカ道ができ(前掲の写真1)・



▲写真5 見晴から赤田代の又夕場(環境省 提供)

2)、湿原の植生や景観が荒らされているのです。

シカはどこから来たのか

冒頭に、元々尾瀬にはシカはいなかったと記載しましたが、ではどこから来ているのでしょうか。環境省の自然環境保全基礎調査では、1978年当時は尾瀬に隣接する新潟県や福島県にシカの生息域はありませんでした。尾瀬の近くの生息域としては栃木県の日光と長野県北部が大きな生息地で、群馬県では局地的に分布していました。

尾瀬でシカが目撃されるようになったのは平成7年頃です。近年の暖冬で積雪が減ったことや、日光側でシカの個体数が増加し、これまでに生息していなかった地域に移入していることなどが推測されます。

現在、尾瀬では、環境省がシカを捕獲して移動ルートを把握するテレメトリー調査を行っています。その調査によると、これまでに日光から尾瀬に移動するルートが2つ確認されています。シカは広い行動半径を持ち、また冬期間、尾瀬は深い雪に覆われるため越冬地に移動します。このようにシカは季節ごとに移動を行いますので、効率的なシカの対策をとるためにも、この移動ルートを把握することがとても重要となります。

後編では、シカの対策の取り組みについて、国や各県、財団の取り組みについて述べたいと思います。

尾瀬保護財団では、シカの被害から尾瀬を守るために活動を行っています。通常のご寄付とは別に、使う目的をシカ対策に限定したご寄付の方法も可能ですので、企業・個人を問わず皆様の御支援をお願いします。

現地情報

原をわたる風だより

山の鼻ビジターセンターより

今シーズンを振り返って…

尊敬

ここに来て学んだこと。それは自然の賢さに対する尊敬の気持ち。尾瀬ヶ原にある植物達の日々の成長を見続けていると、本当に健気で頭が良くて、人間は見習わなければいけないと思わされることばかりありました。例えば、綿毛になる植物。遠くに種を飛ばそうとして、自身の背を伸ばす。また、動物に食べられ運ばれることで発芽しやすくなる。と噂のある植物もあります。頭で知るより、ここで実際に観察して経験する。その賢さには日々、感動していた半年間でした。本当に本当に自然には頭が上がりません。来年もその健気で美しい姿を見せてくれますように…。

尾瀬が好き

(秋原 舞)

5月9日。初めて来た尾瀬はまだ冬でした。辺り一面、雪雪雪…。これぞ白銀

の世界！」そう

思いました。そんな尾瀬に来て、早朝の尾瀬

を知りたくて、嫌いだっただけ早起

きをするようになり。中

でも印象に残ったのが、日の出の瞬間です。まだ薄暗く肌寒い明け方、燧ヶ岳の方向



▲5月17日 朝日

から、一筋の光が木道を照らしました。その光がとても優しい温かさで、私の中でエネルギーが湧いてくるのが分かりました。太陽のありがたさを実感した瞬間でした。

たくさんの感動を与えてくれ、自然の魅力、大切さを教えてくれる尾瀬が、とても好きになった半年でした。

尾瀬を守る人達

(渡辺 早紀)

私は今まで尾瀬に来た事がありませんでした。来たいとは思っていませんでしたが、管理員として来るとは思っていませんでした。尾瀬に関わってほしいと思っただけ、多くの人が尾瀬に携わっている事です。ビジターセンターはもちろんだ、山小屋さん、そして尾瀬ボランティアさんによって美しい自然は守られています。特に「ゴミ問題」については、ボランティアさんのおかげ

もあり、多くのゴミを拾って頂いています。

私達管理員もゴミ拾いはしていますが、やはり毎日とはいきません。いつもゴミ

拾いをして下さっていることに感謝と尊敬の気持ちでいっぱいです。ゴミの無い綺麗な尾瀬であるようを祈っています。

(森山 暢希)

あっといふ間のワンシーズン

人の流れ、景色の移り変わり、花暦と、全てがめまぐるしく、正に「あっといふ間のワンシーズン」でした。また、末端の立場ということもあり、その業務内容は多岐にわたりました。トイレ掃除・木道整備・傷病対応・自然解説業務など。尾瀬の何でも屋さんと思っただけに、クマ対策には特に力が入っていた私ですが、せっかくなので写真を一枚のせてみたいと思います。

夏の間、毎日のように顔を出していた1歳半のクマ。



▼今夏、出没していたツキノワグマ
※この写真は、クマ調査・対策の際に十分な装備をした上で撮影したものです。非常に危険なため、一般の方は絶対に撮影しないで下さい。

来年はもう出てこないでくれよ！

そして尾瀬の自然よまた来春！

(櫻井 秀樹)

ビジターセンター職員



▲5月13日ビジターセンター前にて職員一同(新人スタッフが加わりました。)

新人ばかりの今年のビジターセンター。最初のほうは、みんなてんやわんやでした。私自身も尾瀬には何度も来たことがありますが、ビジターセンター管理員として来るのは初めてで戸惑う事ばかりでした。最初はどんなことになるのかと思いましたが、慣れない新人同士で相談したりしながら業務をこなしてきました。新人ばかりで力足らずの事が多々あったと思います。しかし、新人ばかりだからこそ力を合わせて出来たこともあったと思います。

そんな仲間達と仕事が出来たことが私にとって幸せでした。

さて、来年はいつだってどんな管理員が集まり、どんなビジターセンターになるのでしょうか、楽しみです。

(岸畑 亮介)

現地情報

おじじよだより

尾瀬沼ビジターセンターより

今シーズンを振り返って…

私は尾瀬沼ビジターセンターの勤務に携わるため、生まれ故郷、佐渡ヶ島を後にしました。群馬県に入るまでの船や電車の移動距離は約288.7km。さらに険しい雪道を越え、今年、生まれて初めて尾瀬の地を訪れました。

それから、「光陰矢の如し」とあるように、あっという間に時は経ち、尾瀬でいよいよ半年を迎えようとしています。勤務始めの5月のことが、つい昨日のごとの様に思われます。5月13日の早朝、山の鼻ビジターセンターでの研修を終え、いよいよ、勤務先の尾瀬沼ビジターセンターに移動しました。清水水、一ノ瀬、岩清水、十一曲がり、三平峠、三平下。上山当初は、肩に食い込むような重いザックと雪の厳しい山道でしたので、気の遠くなるような道のりでした。しかし、今では40kg近くある荷物も楽々と背負えるよ



▼10月9日 燧ヶ岳を望む

うになり、体力や精神力と共に自信がつかしました。また、通り過ぎる登山客の方から「御苦労さまです。」「頑張ってください。」「など温かな声援をいただき、とても元気づけられます。

なかなか、登ることが出来なかった至仏山や燧ヶ岳を何度も登山しましたが、そのたびに見知らぬ動植物や移り行く景色を見て、まだまだ、自分の知らない世界はこんなにもあるものだと驚くばかりでした。



▲10月5日 長蔵小屋近くの釜ヶ淵にて

佐渡で見慣れたナナカマドが赤い実を付け、ブナの葉が金色に輝く秋にはいりました。一番人が混み合うミスバシヨウの開花・ニッコウキスゲの開花シーズンにも負けず、「草紅葉」のシーズンも尾瀬を訪れる登山客の方でにぎわいます。

シーズンを通して、しっかりと地図をもちコースを頭に入れて、登山の装備を行い、マナーを守ってゴミを持ち帰る多くの登山客の方々に出会い、楽しく会話をしながら情報を集めています。

しかし、時には、パンブスやブーツ、スニーカーやサンダルなど登山にはあまりふさわしくない装備で登山する方が見られます。こ

こに食堂がありますか。」「ここでは携帯電話は使えますか。」「ここはどこですか。」「など、思わず不安になるような質問もあります。

また、湿原保護のために入ることを禁止されている場に足を踏み入れ撮影を行う人さらにツアアのガイドが観光客を湿原に入れ、記念撮影する姿もあります。周辺の休憩所や山道にはお菓子などの袋や使用済みのティッシュが落ち、木道の下にはペットボトルや空瓶を隠しておくなど、非常にマナーの悪さが目立つこともあります。

尾瀬沼は標高1660m、周辺は2000m級の山々に囲まれた高山湖です。街とは違い、「ゴミ箱も無く、食事や休憩、宿泊をする場所は限られており、携帯電話も通じない世界です。

今年の5月から9月にかけて13件中、5件の傷病対応に携わりましたが、皆、口をそろえて言います。「まさか、こうなるとは思わなかった。」「こんなに山が怖いものとは思わなかった。」と。

病院はもちろんありませんし、救急車を呼ぶことはできません。また、救助ヘリコプターをどこにでも降ろすことはできません。簡単な応急処置を行い、途中まで自力で歩いていただくか、大勢の方に協力していただいで担架で運ぶしか出来ないのです。

私達が尾瀬沼へ上山する際に通り過ぎた三平峠では以前、登山客の女性の方が1名、遭難のため死亡した事故がありました。その他、尾瀬では平成24年度に落雷や滑落、

転倒、遭難などで負傷、時には命を落とされた方がいます。

余談になりますが、私は島を離れ、新潟から尾瀬に向かう途中に親友から言われた言葉があります。「尾瀬にいても、尾瀬でいくな」。初めて聞いた人はどういふことだろうと首をかきげることでしょう。その意味は、「尾瀬に行くことは構わないが、尾瀬で逝ってはならない」ということです。

何度も繰り返しますが、尾瀬ヶ原、尾瀬沼を含め、尾瀬は2000m級の山々に囲まれた山岳地帯です。いつ何が起るかわからない場所です。私達のように十分な装備を行い、尾瀬の保護に携わる職員も、当然、皆さんと同じように時には命にかかわるようなことに遭つこともあります。

結びになりますが、私は、尾瀬を訪れるときは、いつ何時、何が起ることも対処できるよつに十分に装備を整え、マナーを守り、尾瀬に生きる命に触れ合い、学びながら楽しみ、尾瀬の美しく貴重な自然環境を未来の子供たちに受け継いでゆきたいと思っています。

どうか皆様もご協力ください。よろしくお願いたします。

(川上)



▲10月8日 ビジターセンター展示 (職員の手作りです)

「尾瀬ヶ原の主役が ヤチヤナギに？」

尾瀬ヶ原の木道を歩いていると、痛々しい光景が目につく。いわゆる「ヌタ場」と呼ばれる二ホンシカの泥浴び場だ。二ホンシカの被害は他にも食害による植生、特にニッコウキスゲなどへの影響が深刻な問題となっている。

しかし、ここでは二ホンシカ問題は別の機会に譲るとして、私が長年気にかかっているヤチヤナギ〔注1〕の勢力分布に触れてみたい。

30数年前の写真を眺めると、上ノ大堀川橋のシラカバの前にはヤマドリゼンマイの群落の緑が美しく、竜宮十字路の近くにはミツガシワやリュウキンカの大群落が残雪の至仏山、景鶴山と見事な景観を見せている。

しかし最近の写真には小低木のヤチヤナギが、いずれも大きな群落をつくっている。また、中田代の高層湿原（ミスゴケ湿原）内にもヤチヤナギがその分布を広げている。つまり、私が尾瀬を撮影しているたった30数年間のうちに、尾瀬ヶ原はかなりのスピードで植生が変化していることになる。

この尾瀬ヶ原の変化については、1995年NHKBS夏休みスペシャル「立体生中継・尾瀬」で一緒に植物生態学の世界の権威者であり、「尾瀬ヶ原の植生・尾瀬ヶ原湿原植生の生態学的研究」（国立公園協会、1970年）の著者でもある某氏も、ヤチヤナギが増え

たと驚いていた。また、1998年NHKニュース「おはよう日本」の生中継に出演したが、その際にアナウンサーが「人間が木道を歩くとその振動で湿原が揺れ、空気がヤチヤナギの根本に入り、成長を促しているのではないか」つまりヤチヤナギの勢力分布には、人的要因が少なからず影響しているのではと伝えていた。

かつて先輩から、尾瀬ヶ原も我々の孫の代、いやその先には乾燥して戦場ヶ原のようになるだろうな、と言われたことがあったが、ヤチヤナギが湿原を埋めつくすことで湿原が乾燥化して、湿原の草原化に拍車がかからないだろうか、無知蒙昧な私は木道を歩くたびに危惧を抱いていた。

最近、長いこと謎とされていたアカシボ現象〔注2〕やミスバシヨウの特異な進化が科学的に解明されたと聞くので、次は、環境省にはぜひこのヤチヤナギの生態、分布などを調査して、今の変化の速度が本来の自然のテンポなのか、あるいはNHKのアナウンサー氏の言葉のように、人的な要因が引き起こしている加速度的な現象なのかを解明して欲しいと願っている。

〔注1〕ヤチヤナギ（谷地柳）（ヤマモモ科）

湿原（谷地）に生える小低木で、ヤナギに似ていることから名付けられた。木の高さは30〜60cmほど。5月下旬〜6月上旬に紅色の花穂をつける（花穂とは、穂のように茎についた花の並び方のこと）。雌雄異株という、雌花と雄花が別々の株に生じる種子植物である。



▲ヤチヤナギ（財団撮影）

〔注2〕アカシボ（赤渋）

尾瀬において、雪解け頃のわずかな期間に発生・消滅する自然現象。例年、5月下旬の1週間ほどの間に見られる。湿原（尾瀬ヶ原）や湖面（尾瀬沼）に積もった雪が一面、赤茶色に変化する。



▲秋の夜空（新井氏、撮影）



▲初夏の研究見本園（新井氏、撮影）

【注記に関する主な参考文献】

- 『尾瀬 自然観察ガイド』（財団法人尾瀬保護財団／著、山と溪谷社、2002年）
- 『新・尾瀬の植物図鑑』（新井幸人／写真、里見哲夫／解説、偕成社、2001年）
- 『尾瀬 植物手帳』（猪狩貴史／著、JTBパブリッシング、2006年）

■連載コラム

認定ガイドがススメるとっておきの尾瀬

その25 『五感を使って尾瀬を倍々楽しむ』

<渡部勝司(尾瀬自然ガイド)>

(尾瀬保護財団 Tel 027-220-4431 URL <http://www.oze-fnd.or.jp/>)

A1 尾瀬では五感を使うと倍々楽しめます。視る：目立つ花の周りにも小さくて可愛い花が多い。聞こえる：入道雲が音を立てています。聞く：入口で最初の歓迎は鳥たち。ウグイス(ケキヨ、ケキヨ)は警戒音。沢沿いの大樹に耳を当てると、地下水を吸い上げる脈音に耳もたちは大感動。尾瀬では、動植物をとってはいいませんが、嗅ぐ・触るはOKです。上田代の「ヤチヤナギ」の葉はペパーミントの香りがし、癒してくれます。天高くトンビが「ヒーヒョロロロ」と舞う。立ち止まる：太古の自然に見惚れつつ学習する……いいものです。



A2 すばり、7月〜8月中旬のヤマメです。葉がヤマメに似ていたため間違えられたキノコウカが一面に咲き誇ります。360度の眺望は感動もの。南側の片品村方向には赤城山。よく晴れた日には富士山が拝める。時計回りに目を転じると、至仏山→景鶴山→平ヶ岳→燧ヶ岳→日光白根山と続く。ヤマメ平は負の遺産だが、荒廃した湿原の「植生復元」の場合は、自然を学ぶ場でもあります。

A3 ①大きめのビニール袋：降雨の時に役立つ。ザックカバーは必需品だが持参しない人が意外と多い。困っている人に差し上げてほしい。②小物入れ：小物類は意外と多い。一括しておけば紛失しないで済む。③布粘着テープと太めのひも：靴底が劣化等で剥離した場合、応急固定に役立つ。また、応急救護の際の固定にも役立ちます。

A4 8月はじめ、下田代でホテル観賞会を企画したときのこと。午後8時、小屋から戻つた移動。闇夜に目が慣れると足下から回り一面でボカボカ。満天の星と流星がさらに場を盛り上げ、参加者のため息と歓声が続いた。翌朝、また暗い部屋。ぶら下げていたシャツのポケットからボカボカ。まさか？ヘイクボタルが一匹まぎれ込んでいた。周りもびびくりだが、私が一番驚いた。そこへ戻してやる。

A5 尾瀬に来られたお客様に「自然環境保護」の大切さを説く媒体者になつていただくことが、私の夢です。尾瀬から自宅や会社に戻られますが、それぞれの地域や職場などで自然の素晴らしさや大切さを話題にしたい。ただ、同調者が2〜3名でも、尾瀬年間入山者数からみて100万人超の理解者が誕生する計算です。環境保護の原点尾瀬に限らず、皆様のお力添えをお願いします。

その26 『魚沼ルートで尾瀬の自然や歴史を学ぶ』

<星野正昭(尾瀬自然ガイド)>

(奥只見郷ネイチャーガイド Tel 025-792-7300 URL <http://www.city.uonuma.niigata.jp/kankou/>)

A1 尾瀬は優れた自然や景観だけでなく、歴史や文化、そして最先端の環境問題など多くを学べる場所です。これらを事前にガイドブックやインターネットなどで調べること、より楽しみが増えます。現在テレビで放送中の大河ドラマ「八重の桜」に関連する、戊辰戦争時の云津藩の砲台の跡が大江山原にあり。花や木だけでなく歴史遺産も楽しめます。

A2 最近、秘境ルートと呼ばれた魚沼から行く尾瀬ルートをお勧めします。新潟県から入る唯一のルートで、全長22kmの内19kmがトンネルの奥只見シルバークライン、日本最大級の奥只見ダムと遊覧船から眺める燧ヶ岳や平ヶ岳などの山々、季節ごとに美しく変化する周囲の原生林、そして樹海ロードと言われる原生林のトンネルをバスで潜るなど自然の変化に富んだ魅力にあふれるルートです。入山口の沼山峠から尾瀬沼の間は高低差も少なく、初心者の方でも手軽に尾瀬を楽しむ事ができます。

A3 ①地図：いまどこを歩いている



か、どちらに向かうか確認。②植物図鑑：ポケットに入る小さめのもの。③デジタルカメラ：時間と場所が記録でき整理するときの楽しみ。④メモ帳：ビューポイント、開花状況等の書き込み。⑤100円玉：尾瀬のトイレはチップ制(一部有料)。⑥レジ袋：ゴミ入れだけでなく、レジ袋を靴にかけると雨具(スポン)を簡単に着けられます。

A4 何回も尾瀬を訪れている私と同年代の女性お一人を案内した時のこと。花はほとんど終わっていましたが、尾瀬の自然や歴史についてガイドしました。ちょうど三平下で木道の取替え工事中で、工事関係者から「この橋は今完成したところでお客様が初めてなので『渡り初め』です」と言われ、工事関係者に感謝申し上げ、渡りました。めったにない経験ができ、お客様も大変喜んでおられました。

A5 尾瀬の貴重な自然を子孫に引き継いでいくには、大勢の皆様が尾瀬ファンになつていただく事が大事です。そのためには、私たちガイドが尾瀬の自然や歴史、重要性や素晴らしさなどを多くのお客様に正しく伝えていかなければなりません。私自身まだまだ未熟ですが、尾瀬の基本的な自然や歴史はもちろんです。お客様から喜んでいただけるようにインタープリテーション能力の向上に努め、大勢の皆様と一緒に尾瀬をフィールドにして楽しみたいと思います。

[ガイドさんへの質問事項]

Q1 尾瀬の楽しみ方 Q2 オススメの尾瀬スポット Q3 尾瀬歩きに便利な道具・装備
Q4 思い出のエピソード Q5 今後の抱負・目標

尾瀬ボランティア情報

このコーナーは尾瀬ボランティアに登録されている方のためのコーナーです。

●第11回インタープリテーション研修を開催しました

8月3日(土)から5日(月)まで(2泊3日)、尾瀬岩鞍リゾートホテル、山ノ鼻地区(尾瀬山の鼻ビジターセンター、研究見本園)を会場に、第11回インタープリテーション研修が開催され、4名が受講しました。平成21年度以来の開催となります。

この研修では、自然解説活動を行うための基礎知識及び技術を習得しますが、入山者に国立公園としての尾瀬を理解してもらい、マナーやルールを知ってもらい、尾瀬での体験を通して自然や環境に関心を持ってもらうことが、尾瀬でインタープリテーションを行う目的です。この研修を修了すると、「お話しボランティア(尾瀬沼)」及び「環境学習ミニガイドツアー(山ノ鼻)」の活動に参加いただけます。

研修の講師として、一般社団法人PNETTJインタープリテーションネットワーク・ジャパン総括研究員の本多孝氏をお招きしました。大変明るい性格で、楽しい雰囲気の中丁寧に分かりやすく講義・実習をしていただきました。

1日目は、尾瀬岩鞍リゾートホテルに宿泊し、インタープリテーションの概要や同ホテルゆり園を利用して基礎実習が行われました。2日目は、山ノ鼻地区へ移動し、尾瀬ロッジに宿泊、尾瀬山の鼻ビジターセンターのレクチャールームや研究見本園で実践的な実習を交えた研修が行われました。最終日の3日目は、実際に一人ずつみんなの前でインタープリテーションに挑戦してもらいました。やや緊張感ありましたが、それぞれが、工夫を凝らした構成・演出により行っていました。

来年度も開催する予定です。是非、多くの方に受講していただき、お話しボランティア等の自然解説活動を行っていただきたいと考えております。



▲右から4人目までの方が受講者、5人目が講師の本多孝氏

●「尾瀬認定ガイド」の資格を取得しましょう!

日頃から、尾瀬ボランティアの皆さんには、入山口啓発活動、清掃活動、自然解説など様々な活動をしていただいておりますが、これらの経験を活かして、「尾瀬認定ガイド」の資格を取得しませんか!

平成18年に策定された「尾瀬ビジョン」で環境教育とエコツーリズムを推進するため、ガイドの資格認定(登録)制度の創設と、ガイド利用の促進に取り組んでいくこととなりました。これを受け、当制度の具体的な検討が行われ、平成20年5月には「尾瀬認定ガイド協議会(事務局:尾瀬保護財団)」が発足しました。平成21年11月には尾瀬自然ガイド134名が誕生し、平成22年度から本格的にガイド活動を開始しました。また、平成23年4月には名称を「尾瀬ガイド協会」と改めました。

尾瀬ガイド協会では、尾瀬国立公園で高いガイド技術と正確な救急法を備え、尾瀬と周辺地域の魅力を解説できる知識と能力を持ち、自然保護の原点ともいえる尾瀬において自然保護の精神や環境保主、適正利用への理解と啓発を行うことができるガイドを認定することを目的としており、認定したガイドにより、尾瀬において安全で快適な質の高い自然体験が提供されることを目指しています。

尾瀬ガイド協会が認定するガイドの種類は、「尾瀬自然ガイド」と「尾瀬登山ガイド」の2種類あります(詳細は次頁別表参照)。

トピックスTOPIX

●尾瀬サミット2013を開催しました

平成25年9月3日、当財団の理事・評議員や関係者が尾瀬に一堂に会し、尾瀬に関わる課題などを話し合う「尾瀬サミット2013」が、新潟県魚沼市の「奥只見緑の学園」で、「尾瀬からの多様な魅力の発信」をテーマとして開催されました。

サミットでは、尾瀬の利用促進（入山口の利用分散化）、尾瀬の保全対策（野生生物対策、外来植物対策）、尾瀬のPR活動、環境教育の推進、尾瀬国立公園の将来像などについて意見交換が行われました。

入山口の利用分散化では、鳩待峠への一極集中を分散化しようと、群馬県が平成23年から今年7月まで行った、大清水～一ノ瀬間で低公害車を運行する社会実験の結果が報告されました。この結果、1日の平均利用者数は年々増加し、本年度の利用者アンケートでは、実用化された場合に「利用したい」との回答は95%に上り、大澤知事は、「社会実験を3年間実施した結果、（実用化への）期待も大きい。できるだけ早期に実用化したい」と述べました。

野生生物対策では、近年、ニホンジカによる食害が深刻化するなか、群馬県が実施しているシカの捕獲や福島県が実施した夜間の見回り・追い払いなどの事業について報告されました。

また、サミットに先立ち、登山家で当財団の理事で

(別表)

ガイドの種類	尾瀬自然ガイド	尾瀬登山ガイド
認定内容	尾瀬でガイド活動する上で、必要な知識や技術を有し、尾瀬ガイド協会が定めた検定試験に合格した者	尾瀬自然ガイドに認定された者で、至仏山、燧ヶ岳、会津駒ヶ岳などの山岳エリアでのガイド活動に必要な登山技術などを有し、所定の講習を修了した者
ガイドの対象区域	尾瀬国立公園全域(至仏山、燧ヶ岳、会津駒ヶ岳、田代山、帯積山などの山岳地域および残雪期の温泉小屋～三条ノ滝(段吉新道を除く。)および尾瀬沼南岸を除く。)	尾瀬国立公園内の山岳域を含む全ての登山道(ただし、廃道になっていたり、立ち入りが規制されている登山道を除く。)また、立ち入りや入山規制等がある場合は、規制内容を遵守する。
ガイドの活動期間	尾瀬に通じる道路の開通日から閉鎖日まで	尾瀬に通じる道路の開通日から閉鎖日まで(ただし、山岳域の活動期間は別途決まりあり。)
認定期間	3年	3年
認定方法	協会が定める受験基準を満たす者が、原則として協会が実施する検定(筆記・実地)を受験し、合格した者	協会が定める受験基準を満たす者が、原則として協会が実施する検定(レスキュー・実地)を受験し、合格した者。また、受験資格を満たしている者のうち、(公社)日本山岳ガイド協会が認定する登山ガイド以上の資格保有者については、書面による申請で認定。
ガイドレシオ(ガイドと参加者の比率)	ガイド1人あたりの催行人数は15名まで(8名程度が望ましい)	ガイド1人あたりの催行人数は12名まで(8名程度が望ましい)

●今後の活動予定

今シーズンも尾瀬ボランティアの皆さんには積極的に活動していただき、本当にありがとうございます。

シーズン終了後は、NHK「わたしの尾瀬」写真展の開催に関連するボランティアなどの活動を予定しておりますので、ご協力をよろしくお願いたします。活動内容は随時お知らせします。

ボランティア総会については、平成26年2月頃を予定していますが、詳細は別途お知らせします。



▲3日のサミットで挨拶をする大澤理事長



▲2日の自然観察会で尾瀬認定ガイドの説明を受けるサミット参加者

ある田部井淳子さんによる講演が行われました。サミット開催の前日(2日)には、福島県檜枝岐村の尾瀬沼ビジターセンターから沼山峠にかけて自然観察会が行われました。



寄付のお願い

尾瀬保護財団では広く寄付をお願いしております。

当財団は、尾瀬国立公園において、利用者に対し自然への理解を深めるための解説活動や、適正な利用に関する普及啓発を実施するとともに、各種の環境保全対策や施設の管理運営等を行ない、尾瀬の優れた自然環境の保全に寄与する活動を続けております。

◆個人住民税の寄付金控除の対象に尾瀬保護財団が指定されました。

個人住民税の寄付金税制の拡充により、各都道府県・市区町村が条例で指定した法人に対する寄付が、住民税の控除対象になりました。尾瀬保護財団は下記の県・市・町から指定を受けています。(財団への寄付を行った翌年1月1日にこれらの県・市・町にお住まいの個人が対象となります。)

福島県、群馬県にお住まいの方：個人県民税

福島県富岡町、群馬県前橋市、群馬県高崎市、群馬県桐生市にお住まいの方：個人県民税と個人市民税・町民税

◆また、尾瀬保護財団は「公益財団法人」に認定されており、当財団への寄付は所得税・法人税の優遇措置を受けることができます。

※なお、所得税、住民税控除の対象となる方には、領収書の送付時にご案内資料等をお送りします。

◆企業・団体の皆様とより良いパートナーシップを築けるよう、下記の制度があります。

種類	条件	特典
特別協賛寄付	3年に渡る毎年30万円以上の寄付、または一時の100万円以上の寄付	①財団機関誌、財団ホームページに企業等名称、ロゴマーク、メッセージを1年間掲載 ②尾瀬国立公園ロゴマークの取扱要領に基づき使用申請ができ、許可後は無償で1年間使用 ③翌年度に作成する「尾瀬ハイキングガイド」に企業等名称、ロゴマーク、メッセージを掲載
協賛寄付	3年に渡る毎年10万円以上30万円未満の寄付、または一時の30万円以上100万円未満の寄付	①財団機関誌、財団ホームページに企業等名称を1年間掲載 ②翌年度に作成する「尾瀬ハイキングガイド」に企業等名称を掲載

■寄付につきましては、財団事務局（群馬県庁 17 階・027-220-4431）にご来訪いただくか、財団にご連絡の上、下記口座にお振込をお願いいたします。

福島県	東邦銀行県庁支店	普通	1078095
	福島銀行本店営業部	普通	0590088
	大東銀行福島支店	普通	1287138
群馬県	群馬銀行県庁支店	普通	0515428
	東和銀行本店営業部	普通	0975531

新潟県	第四銀行県庁支店	普通	1182791
	北越銀行県庁支店	普通	0199366
	大光銀行新潟支店	普通	0837334

特別協賛寄付者のご紹介

※寄付日付順、敬称略

尾瀬紀行

尾瀬紀行（信託ファンド）で収受した信託報酬の一部として総額 503 万円余りをご寄付いただきました。平成 19 年より今回が 7 回目のご寄付となります。(通算寄付総額 45,189,933 円)



2013年7月10日寄付

DIAMアセットマネジメント株式会社 今年度は251万円余りをご寄付いただきました。(通算寄付総額 22,594,967円)

寄付者からのメッセージ：尾瀬の美しく貴重な自然を後世に受け継ぐために今回の寄付金が有効に活用され、環境保全の一助となることを期待しております。DIAMはこれからも金融の仕組みを通じて、社会に貢献する資産運用会社を目指します。



第四銀行

2013年7月10日寄付

株式会社第四銀行 今年度は45万円余りをご寄付いただきました。(通算寄付総額 5,013,756円)

寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けるため、今回の寄付金が無効に活用されることを期待しております。第四銀行はこれからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。



新潟証券株式会社

2013年7月10日寄付

新潟証券株式会社 今年度は6万円余りをご寄付いただきました。(通算寄付総額 1,542,229円)

寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けるために今回の寄付金が無効に活用されることを期待しております。新潟証券は第四銀行グループとして、これからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。

2013年6月20日寄付

2013年6月10日寄付

2013年2月8日寄付

2012年12月25日寄付

株式会社群馬銀行 今年度は92万円余りをご寄付いただきました。(財団設立当初からの寄付を含め、通算寄付総額 26,115,677円)

寄付者からのメッセージ：信託報酬の一部が尾瀬保護財団への寄付となる仕組みの投資信託を取扱っており、多くのお客さまの善意の集大成を寄付させて頂きました。趣旨にご賛同頂き投資信託をご購入頂いた全てのお客さまに深く感謝いたします。

株式会社東邦銀行 今年度は106万円余りをご寄付いただきました。(通算寄付総額 8,025,704円)

寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けることを目的として、当ファンドの販売・運用を通じて地域社会の発展に貢献するとともに、広く尾瀬の自然を愛する皆様と共に力を尽くしていく所存であります。今後とも積極的にCSR(企業の社会的責任)を重視して取り組んで参ります。

公益財団法人コメリ緑育成財団 コメリ緑育成財団様より50万円のご寄付をいただきました。

コメリ緑育成財団様からのご寄付は、前身のコメリ緑資金の会様からのご寄付と合わせて、今回で4回目のご寄付になります。今回を含め、今後新たに3年間に渡りご寄付をいただくこととなっています。(通算寄付総額 2,000,000円)

寄付者からのメッセージ：当財団は、(株)コメリの利益の1%還元事業として1990年に設立した「コメリ緑資金」による緑豊かなふるさとづくりへの助成事業を引き継ぎ、2012年に公益財団として新たにスタートしました。私たちの住むふるさとが花や緑にあふれ平和で豊かであってほしいと願い、豊かな自然環境づくりや園芸農業分野における技術開発などへの助成を行っています。未来の子どもたちのために、尾瀬の美しい自然と豊かな生態系がいつまでも引き継がれていくことを願っています。

アサヒビール(株)群馬支社 47都道府県において、アサヒスーパードライ缶、ピン及びスーパードライ ドライブラック缶1本あたり1円を各都道府県の売上に応じて、環境関連等の団体に寄付するもので、平成24年秋の第6弾キャンペーンにより239万円余のご寄付をいただきました。

(通算寄付総額 23,079,617円)

寄付者からのメッセージ：アサヒビール(株)群馬支社では、地域との共生や地域貢献を目標に掲げ、2009年春より、アサヒスーパードライ「うまい!を明日へ!プロジェクト「尾瀬の環境保全活動」をスタート。売上の一部を尾瀬保護財団へ寄付させていただいています。より多くの県民の皆様にご賛同いただき、また、賛同いただくことで、県民の皆様とともに群馬県の環境保全を進めていきたいと考えています。群馬県の子供たちの未来のために、お役立ていただけたら幸いです。

協賛寄付者のご紹介

※寄付日付順、敬称略

株式会社フレッセイ

2013年9月30日寄付

フレッセイとキリンビバレッジでエコ基金を創設し、フレッセイの各店舗で販売されたキリンビバレッジの対象商品の売り上げ1本につき0.5円(両社で0.25円ずつ負担)をエコ基金に積み立て、その積立金を尾瀬の自然環境保護のため、27万円余りをご寄付いただきました。エコ基金からの寄付は、今回で4回目となります。(通算寄付総額 1,637,197円)

キリンビバレッジ株式会社

2013年9月30日寄付

フレッセイとキリンビバレッジでエコ基金を創設し、フレッセイの各店舗で販売されたキリンビバレッジの対象商品の売り上げ1本につき0.5円(両社で0.25円ずつ負担)をエコ基金に積み立て、その積立金を尾瀬の自然環境保護のため、27万円余りをご寄付いただきました。エコ基金からの寄付は、今回で4回目となります。(通算寄付総額 1,430,460円)

株式会社ニチネン

2013年7月12日寄付

株式会社ニチネンが片品村の尾瀬工場(平成19年4月に設立)で生産し、販売するミネラルウォーター「尾瀬の湧き水」の収益の一部を、尾瀬の自然環境保全のために役立てて欲しいと、ご寄付をいただきました。平成19年度から毎年ご寄付をいただき、今回で7回目となります。

**一般財団法人
群馬県警察厚生会**

2013年6月20日寄付

当財団の設立の趣旨と活動内容にご賛同いただき、尾瀬の美しい自然が後世の人々に引き継がれるよう活動に役立てて欲しいと、ご寄付をいただきました。平成23年度から毎年ご寄付をいただき、今回で3回目となります。(通算寄付総額 300,000円)

『友の会』コーナー

「友の会」は

豊かな尾瀬の自然を守る財団の活動を支援して下さる方々の集まりです。

【特典について】

※友の会に加入された方には、以下の特典を提供させていただいております。

- ・友の会会員バッジ進呈、各種資料送付(初回加入時のみ)
- ・財団機関誌：年4回配布
- ・宿泊割引：尾瀬戸倉、檜枝岐村周辺宿泊割引
(休日、祝祭日前等の除外日があります。)
- ・尾瀬周辺施設利用料割引：対象施設等の詳細は

尾瀬保護財団ホームページでご確認ください。

<http://www.oze-fnd.or.jp>



【年会費】

個人	個人会員	1口 2,000円
	家族会員 (個人会員と同居の家族)	1口 1,500円
	ユース会員 (3/31現在、満22歳以下)	1口 1,500円
賛助	賛助会員 (団体・法人)	1口 10,000円



ウラジロヨウラク (6月)

ウラジロヨウラクは本シリーズ⑱のヒメシャクナゲと同様に花が下向きに咲く。下向きに咲く生態的理由は「蜜や花粉を雨から守るため」と「蜜を盗むチョウやハナアブの仲間を排除するため」の二つをあげた。

これらの花は茶筒のような単なる円筒形ではなく、入り口で細くなり、先端は反り返っている。口が細まることで、開口部がつぶれにくくなり、反り返りはハチの足がかりとして機能する。こうして、下向きの花は力学的に合理性の高い形態をとっている。

(フラワーエコロジスト 田中 肇)



イベント情報 ◆◆◆

第18回NHK「わたしの尾瀬」写真展

【高崎展】

- 開催期間 平成25年12月13日(金)～18日(水)
午前10時～午後6時
(18日は午後4時まで)
- 会場 高崎シティギャラリー
(群馬県高崎市高松町35-1)

【前橋展】

- 開催期間 平成26年1月7日(火)～14日(火)
午前9時～午後4時
(7日は午後1時から、14日は正午まで)
- 会場 群馬県庁県民ホール
(群馬県前橋市大手町1-1-1)

自然のフォトギャラリー
わたしの尾瀬～四季の彩り～

- 開催期間 平成26年1月1日(水)～2月23日(日)
午前9時30分～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
- (休館日: 1月 8・9・10・14・15・16・17・20・27日
2月 3・10・17日)
- 会場 群馬県立自然史博物館 企画展示室
(群馬県富岡市上黒岩1674-1)

▼第17回NHK「わたしの尾瀬」写真展(平成24年) 展示会場の様子



▲高崎展



▼前橋展

●●● 編集後記 ●●●

11月号発行の運びとなりました。2013年の尾瀬シーズンも終わり、現地には長い冬が訪れようとしています。本号より、尾瀬ボランティアの皆さまに「編集委員」として機関誌制作に参加していただくことになりました。企画会議、編集作業、校正、発送作業などにご協力いただける方を、引き続き、募集中です！初めての試みで至らぬ点も多々あるかと思いますが、記事の内容を充実させ、尾瀬の魅力を発信できるように努めてまいります。今後とも、よろしくお願いたします。(峯岸)



oze mobile
携帯サイト

お知らせ
緊急情報 ライフ映像 など
情報配信中

尾瀬の質問も受け付けています
ツイッター 尾瀬情報配信中

